東ひろしまの遺跡 Vol.4

「塞の神」の下から積石塚を発見

才免遺跡（西条町寺家）

写真１　才免遺跡（積石塚）の発掘調査の様子

才免遺跡は、平成27年９月～12月まで住宅団地造成事業に伴い発掘調査を実施しました。造成計画地のうち、宅地になる部分は盛土をして遺跡をそのまま保存することになりましたが、切土や道路などの工事で遺跡が壊れてしまう部分について、発掘調査を行いました。

発掘調査

発掘調査の結果、弥生時代の溝状遺構・土坑・ピットとともに中世に造られた積石塚を検出しました。調査区の北側では土坑などが集中して見つかっていますが、上述したように工事で遺跡が壊れてしまう部分だけを発掘調査しましたので、（幸か不幸か）遺跡の中でも遺構の少ないところが対象になりました。

一方、遺物包含層と呼ばれる、土器などを多量に含んだ土層が良好に残っており、弥生土器・土師器・須恵器・古代（布目）瓦・土師質土器・陶磁器のほか、古銭や鉄製刀子などが出土しました。

積石塚はサエ（サイ）ノカミか

積石塚の遺構は、「塞の神」と呼ばれている祠（ほこら）の地下に広がっていました。

「塞の神」サエ（サイ）ノカミは、境界を守り、邪霊の侵入を防ぐ神であったと考えられますが、道祖神が合わさって道の悪霊を防ぎ、通行人を護るとともに、村境などに設けられて良縁・出産・夫婦円満などの神として信じられています。また、それぞれの地域によってさらに複雑な様相を呈しているようですが、一般的には「サエ（サイ）ノカミ」と呼ばれる宗教施設を村落の四辻や村境の路傍（ろぼう）に置くことで、様々な災厄が退けられると崇められてきました。（※）

写真２　積石塚の断面

さて、この「サエ（サイ）ノカミ」信仰に限らず、こうした路傍を通る際には、「しばを折り、石を積む」という民間信仰が現在も各所に伝わっています。今回の発掘調査で明らかとなった積石塚にも、多量の石が積み上げられていました。前項の写真１からも分かるように、現存する祠はこの積石塚の上に建てられています。つまり、「しばを折り、石を積む」という「サエ（サイ）ノカミ」信仰によって造り上げられた積石塚の上に、現在も神の鎮座を示すために「塞の神」が祀られているのです。

古銭と鉄製刀子が出土

この積石塚からは、お祭を行った際に供えたと考えられる土師質土器・古銭・鉄製刀子などが出土しました。

古銭は51枚出土しており、開元通寶（模鋳銭か）から寛永通寶まで20種以上が見つかりました。古銭は伝世しますので、初鋳年代が祀られた年代を表しませんが、中世から近世、そして現在も信仰の対象となっている証と言えるでしょう。

（※）桜井徳太郎『民間信仰』塙書房1966 から

写真３　積石塚から出土した遺物（一部）

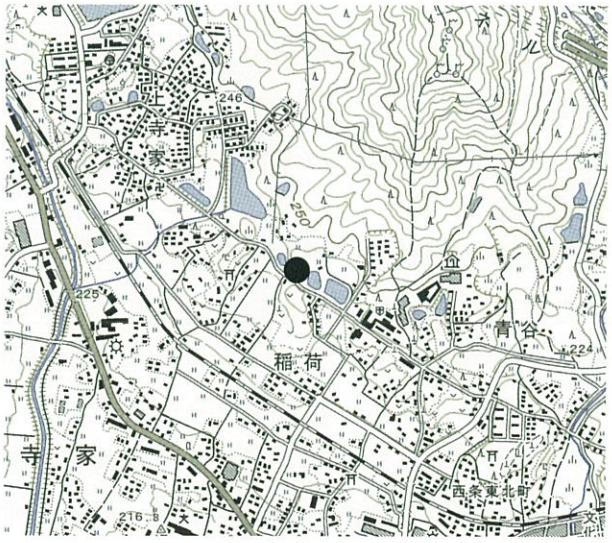

図１　才免遺跡位置図（1：25,000）

ピットから“かわらけ”が出土

鷺田遺跡（西条町土与丸）

写真4　鷺田遺跡の発掘調査の様子

鷺田遺跡は、平成28年1～2月に住宅団地の造成に伴って発掘調査を行いました。計画地のうち宅地になる部分は盛土によって遺跡をそのまま保存することとなりましたが、道路など工事によって遺跡が壊れてしまう部分については、発掘調査を行いました。今回は道路部分だけが対象で、東西に細長い調査区となりました。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構・ピット（柱穴状の小さな穴）などの遺構が調査区の東側から検出され、須恵器・古代（布目）瓦・土師質土器とともに輸入された陶磁器や国産の陶磁器などの遺物が出土しました。

ピット（柱穴）から出土した完形の“かわらけ”

掘立柱建物跡は、主軸が東西に向いた間口3間、奥行き1間（約4.8m×約2.4m）の規模をもつ建物で、東側の柱穴だけ石材が検出されており、1間×2間に庇が付く建物であった可能性も推定されます。

そして注目されるのは、完形の“かわらけ”（土師質土器の小皿）がピットからまとまって出土したことです。限られた調査区ではありましたが、35基のピットが検出され、そのうちの2か所から“かわらけ”がまとまって出土しました。

写真５は“かわらけ”が出土した様子です。このピットからは（写真には２枚しか写っていませんが）合計４枚の“かわらけ”が出土しました。

“かわらけ”の出土状況や土層断面を観察したところ、このピットは掘立柱建物の柱を立てた穴の一つと考えられ、柱を抜き取った後、その中に丁寧に置いた可能性が出てきました。解体されて役割を終えた建物への感謝と、次の建物などに転用される部材への安全を祈願した痕跡とは考えられないでしょうか？　しかし、残念ながら、限られた調査範囲であったため、このピットがどのような建物であったかは分かりませんでした。

写真５　柱穴から“かわらけ”が出土した様子

今回の調査区域は、昭和61年度に財団法人広島県埋蔵文化財調査センターが国道375号線改良工事に伴って発掘調査を実施した調査区東側に隣接しており、その調査成果を引き継ぐ遺構が検出されると考えられていました。しかし、今回実施した調査区の西側は谷地形が拡がっており、遺構が全く検出されておらず、県調査区の遺構群とは断絶していることが判明しました。

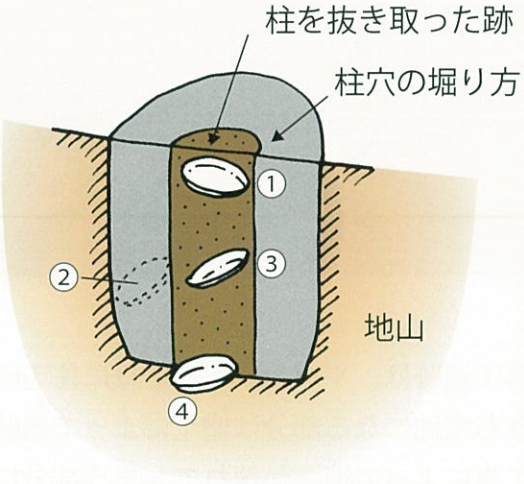

図２　“かわらけ”の出土状況模式図

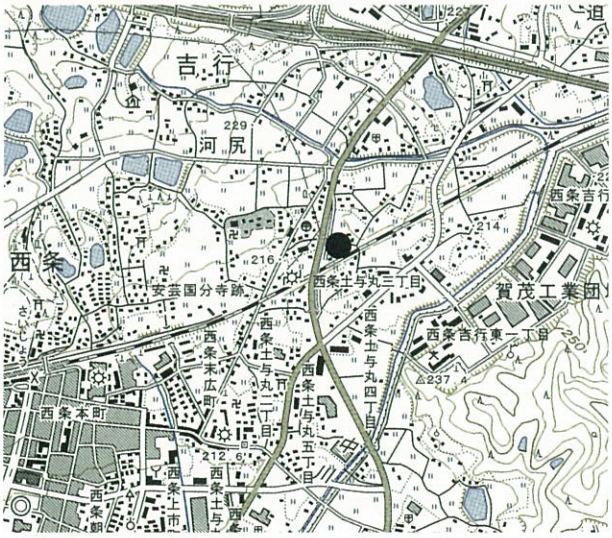

図３　鷺田遺跡位置図（１：25,000）

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡　Vol.4
発行日　2016(平成28)年11月30日
発　行　東広島市出土文化財管理センター
（東広島市河内町中河内651番地7
TEL:082-420-7890　〒739-2201）
編　集　東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail　hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印　刷　大東印刷株式会社